

環境にやさしいライフスタイル - 交通エコライフ - の普及への取り組み

エコ交通マップづくりを例として*

An approach to promotion of environment-friendly life-style traffic eco life

Case of the making of eco-traffic map*

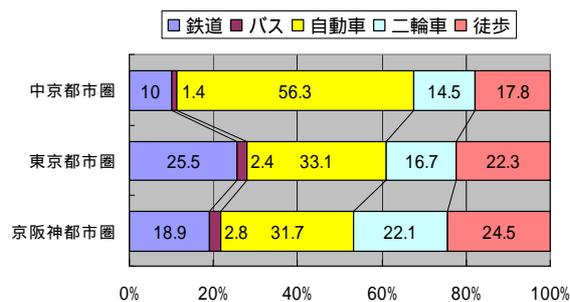
井上智**

By Satoru Inoue **

1. はじめに

中京都市圏は、他の大都市圏と比較し自動車への依存度が高くなっており、次世代をにらんだ交通政策の転換が求められていた。

グラフ - 1 三大都市圏別代表交通手段別利用率



出典：パーソントリップ調査より

そこで、名古屋市では、こうした自動車依存の体質を改め公共交通への転換を促すために、2004年6月に市長の附属機関である名古屋市交通問題調査会から「なごや交通戦略」の答申がなされた。この「なごや交通戦略」では、まちと交通のあるべき姿として、「環境にやさしい交通」「まちの賑わいを支える交通」「安全・快適な交通」を目標として掲げ、交通需要マネジメントの視点から公共交通と自動車の利用割合を3：7から4：6にするとし、この目標を達成するために、交通戦略の4本柱（「自動車の流入や違法駐車への抑制」「公共交通の使いやすいまちづくり」「使いたくなる公共交通の実現」「環境にやさしいライフスタイルの普及」）と3つのパッ

ケージプログラム（「都心パッケージ」「駅そばパッケージ」「広域パッケージ」）により各種施策を推進していくことを提案している。

この中の「環境にやさしいライフスタイルの普及」については、これまで様々な施策を実施してきたが、結果が見えにくく決定打がない中、2008年度、新しい試みの一つとして、「エコ交通マップづくり」に取り組んだところである。

2. 2008年度の取り組み - エコ交通マップワークショップの開催

2007年度、名古屋市交通問題調査会において、「今後、交通エコライフを推進していく上で、どういったことを実施すればよいか。」という議論がなされ、その結果、「エコ交通マップづくりワークショップの実施」が提案された。このエコ交通マップづくりワークショップは、ワークショップを通じて自分の住んでいる地域の交通事情を知ってもらうとともに、自らの交通行動を振り返り環境にやさしい交通について考えてもらうことを目的とするものである。

こういった議論を経て、2008年度、名古屋市交通問題調査会の委員の参加、財団法人名古屋都市センターからのファシリテーターの派遣、名古屋大学の学生の協力などにより、6回に渡り以下のようなプログラムでワークショップを開催した。なお、対象とした池場地区は、名古屋市東部の天白区にあり、郊外の住宅地域である。広さは、東西に約1km南北に約0.8km程度であり、地区内からはバスで地下鉄鶴舞線及び名城線に接続している。

*キーワード：モビリティマネジメント(MM)

**非会員、名古屋市総務局総合調整部交通政策室
(愛知県名古屋市中区三の丸三丁目1番1号、
TEL052-972-2213、FAX052-972-4112)

(1) 第1回：顔合わせ

「名古屋の交通・環境」について、交通問題調査会の委員より交通全般についての座学を行った。

次に、普段の生活の中での移動手段における身近な

例として、「スーパーへの移動手段」について、移動手段、所要時間、頻度、その理由などについてグループに分かれ意見交換を行った。

また、宿題として「一週間の交通行動のチェック」をお願いした。

(2) 第2回：わたしの交通行動

「名古屋の交通・環境」について、名古屋市環境局と総務局より座学を行った。

次に、宿題としていた「一週間の交通行動のチェック」についてグループ内で発表を行い、その内容を取りまとめ、自動車利用からの転換について意見交換を行った。

(3) 第3回：マップづくり

「名古屋の交通・環境」について、名古屋市交通局より座学を行った。

次に、白地図にバス停やバスルート、歩きやすい道などの落とし込みを行った。



写真 - 1 ワークショップの様子

(4) 第4回：交通エコミステリーツアー

名古屋市交通局には、600円で土・日・休日と毎月8日は市バス・地下鉄が乗り放題で、さらに特定の観光施設や商業施設で特典を受けられる「ドニチエコきっぷ」がある。

今回は、お楽しみ企画としてこのキップを利用し、名古屋港ワイルドフラワーガーデンまで市バスを乗り継いで行き、このキップで入場料金を割り引いてもらい、市バスの利便性やこのキップの有効性などを体験してもらった。



写真 - 2 施設の職員に説明を受ける参加者

(5) 第5回：路上観察、マップづくり

第3回で作成したマップを基に、グループごとに担当エリアに分かれ路上観察を行い、その結果をマップに落とし込んだ。



写真 - 3 情報を落とし込んだマップ

(6) 第6回：まとめ

第5回で作成したマップを基に、最終的にマップに入れる情報などについて意見交換を行った。

また、最後に修了証の贈呈と記念撮影を行った。



写真 - 4 参加者の皆様

以下が、完成した「天白区池場地区エコ交通マップ」である。大きさはA3横で、1/8に折って持ち歩けるようになっている。このマップには、バス路線や停留所の位置、バスの時刻表の他、駐輪場や歩きやすい道などの情報、公共施設、病院、スーパー、喫茶店などの地区内の施設を掲載したり、地区内の見どころを(得)スポットとして紹介している。



図 - 1 エコ交通マップ 表面



図 - 2 エコ交通マップ 裏面

反省点としては、参加者が高齢者ばかりで幅広い年齢層から参加者が集められなかったことである。当初は、働いている世代にも参加してもらうため、まち歩きなどの外へ出るプログラム以外は、平日の午後7時の開催とした。しかし、午後7時では働いている人としては開始時間が早すぎ、高齢者としては終了時間が遅くなってしまい、参加が得られにくいものとなってしまった。従って、想定される参加者を考慮し、開催日及び開催時間を検討する必要があった。

また、ワークショップは参加者にとっては非常に楽しいものであるため、その場は非常に盛り上がり、なんとなく満足感はあるが、「何のために今議論しているのか？」というその目的をはっきりと理解してもらうための説明が不十分なところがあり、目的とする議論が不十

分な段階で予定時間となってしまったことがあった。従って、時間は気になるところではあるが、やはり丁寧に目的を説明し、それから議論に入ることの重要性を改めて認識したところである。

このワークショップを開催するに当たり、交通問題調査会の委員には何度も相談に乗ってもらうとともに座学を担当してもらうなど、ご尽力いただいたところである。さらに、ワークショップの発言記録などは学生に協力してもらい、地域の取りまとめや人集めなどでは理解ある地元の方の協力を得た。交通局や環境局からは座学などで協力を受け、これにより幅広い視点から改めて交通エコライフについて考えることができた。また、今後の展開を考慮し、他の地区でこういったことに興味を持っている方にも声を掛け、オブザーバーとして参加してもらった。このように、非常に多くの方の協力により、無事終了することができた。

また、今後この試みを他の地域に広げていくため、この天白区池場地区での取り組みを基にエコ交通マップづくりのための「ガイドライン」を作成した。

2009年度は、この「ガイドライン」と池場地区で作成したマップを活用し、各方面へエコ交通マップづくりを広げているところである。

3. 2009年度の取り組み - 新たな展開

2008年度の池場地区での取り組みは、市民に交通エコライフを浸透させていくための試行的なものであった。しかし、問題はこの取り組みをどのようにして継続して展開していくかである。

そこで、2009年度については、この取り組みを3つ方向で展開している。1つ目は「人づくり」、2つ目は「他地域への展開」、3つ目は「生涯学習センターの講座での開催」である。

(1) 人づくり

今後、「エコ交通マップワークショップ」によるエコライフを推進していくために、この「エコ交通マップづくり」に精通したファシリテーターを養成するものである。財団法人名古屋都市センターとの共催で、「地域のまちづくりファシリテーター養成講座 “エコ交通マップづくり” からエコライフを考えよう」を5月16日(土)、5月30日(土)、6月21日(日)と3回開催するので、ファシリテーターとしてのスキルアップとエコ交通マップの目的を理解してもらうことの2つを目的として展開するものである。

幸い定員を超える応募があり、また、幅広い年齢層から応募してもらうことができた。この論文を皆様にご覧いただく頃には、第2回目の講座が終わっており、

皆様にこういった報告ができるか、今から楽しみである。

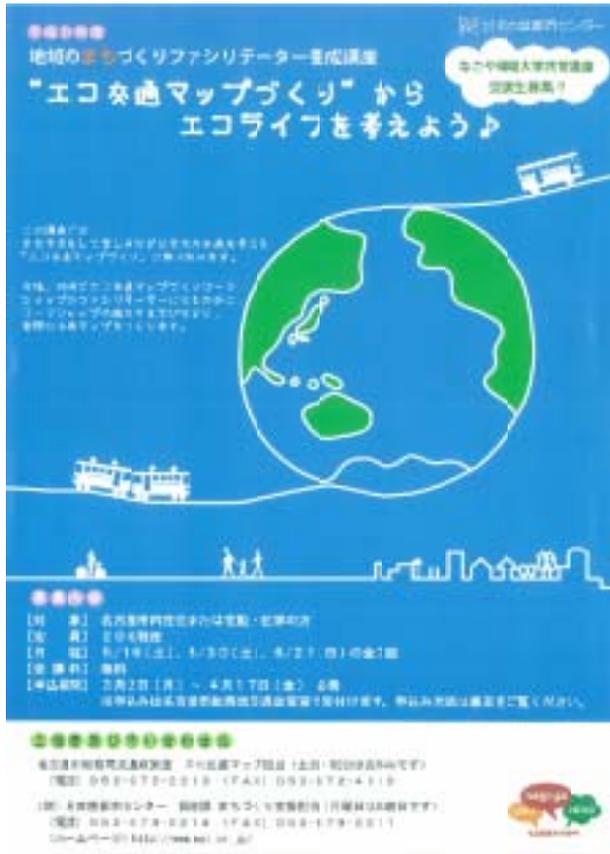


図 - 3 講座募集チラシ

(2) 他地域への展開

地域で展開していく上で一番重要なことは、その地域に根ざした人脈と人望、そしてやる気のあるキーパーソンがいるかどうかである。そこで、他地域での展開では、2008年度、オブザーバーとして参加してもらった方にキーパーソンを担ってもらい、その方の居住している地域で展開していくものである。

緑区では、既にワークショップが始まっており、月1回のペースで実施している。また、幅広く意見を集めるため、積極的に地域のイベントに参加し、検討中のエコ交通マップをイベント参加者に見てもらい、アンケート

を実施し、より使いやすいマップにしようと広く活動を展開している。

また、守山区については、8月に参加者の募集を行い、9月～12月にかけて開催を予定している。

(3) 生涯学習センターの講座での開催

各区における生涯学習センターの講座で「エコ交通マップワークショップ」を開催するものである。2009年度の後期の講座でこれを採用してもらうため、5月上旬の生涯学習センターの社会教育主事の集まりで、この「エコ交通マップワークショップ」について説明を行い、採用してもらえるセンターについては、当局より資料の提供や企画段階において相談に乗ったりするなどの協力を行うものである。

この「エコ交通マップワークショップ」は、まだ始まったばかりの交通エコライフ施策であり、これまで実施してきた手法以外にもっと効果的な手法があるはずである。従って、ここでは、講座のプロがこういった対象者に対し、こういったプログラムを組むのかなど、今度の展開に向けて学ぶ姿勢で取り組むつもりである。

4. おわりに

交通エコライフを含む啓発活動は、その効果が具体的な数値となって表れにくいと、予算が得られにくく担当者も限られる傾向がある。一方、国、県、市町村などの各種団体が、同じような取り組みを同じような対象者に対して実施していることもある。今後の交通エコライフの取り組みは、限られた予算とマンパワーを最大限に生かすために、各種団体の情報交換や連携を密にするとともに、これまでの手法に捉われないこと、より効果的な施策の研究・実施がますます求められてくることになる。

そこで、この「エコ交通マップワークショップ」についても、皆様の交通エコライフ推進ツールの一つとして検討に入れていただければ幸いである。